

## 平成 29 年度 第 4 回白馬高校学校運営協議会 議事録（概要）

- 1 日 時 平成 30 年（2018 年）2 月 19 日（月）午前 10 時～12 時
- 2 場 所 長野県白馬高等学校会議室
- 3 参加者 8 名（欠席 2 名：武田委員、横川委員）  
この他、長野県教育委員事務局高校教育課 3 名  
白馬・小谷両村関係者 4 名  
白馬高等学校職員 3 名



### 4 次 第

- (1) 開会の言葉
- (2) 長野県教育委員会挨拶（塩野高校教育課長）
- (3) 白馬高等学校長挨拶（北村校長）
- (4) 報告事項（北村校長）
  - ・平成 29 年度国際観光科の取り組みについて
  - ・平成 29 年度匿名性を担保した授業評価及び学校評価の結果について
  - ・平成 29 年度学校経営方針における重点目標についての実施状況について
  - ・平成 29 年度卒業予定者進路状況等について
  - ・平成 30 年度に向けての新しい取り組みについて
- (5) 協議事項（白馬山麓環境施設組合および学校からの以下の報告にもとづく意見交換）
  - ・地元自治体による白馬高校支援体制について
  - ・平成 30 年度長野県白馬高等学校経営方針（案）について
  - ・平成 29 年度学校運営協議会の活動及び平成 30 年度活動計画（案）について
  - ・その他

#### 意見交換

##### <下川委員（太田白馬村副村長）>

○地元自治体からの支援ということで始まった白馬高校支援事業だが、平成 30 年度は全国募集の国際観光科が全学年そろい、第一回目の卒業生を送り出す重要な時期にさしかかる。寮についても人数が増え、増築して備えている。また、人数が増えると運営上も保護者との連携を密にとるなど、いっそうの取組が重要になると考えている。

##### <岸委員>

○公立高校が、わずか 2 年で、ここまでくるとはと、深く感銘している。すでに地域の活性化に大きく寄与している。「学校再生」は、時間のかかるもので、これからの正念場だ。

##### <横澤委員>

○これだけ短期間に、このような良い状況になっているのは、関係の方々や地域住民の気持ちの一つになったからだと思う。子どもたちには安心して、希望をもって白馬高校に入学してほしい。

##### <宮嶋委員>

○予算規模を見て驚いている。両村の支援で、現在の白馬高校が成り立っているが、白馬高校で育った生徒たちが、卒業後に地元に戻ることも考え、将来を見据えた大きな活動だと感じた。これだけ地元が支援している学校なのだという事を知り、地元の中学生在が、もう少し白馬高校に入学してくれるようになると良い。

##### <奥原委員>

○教育というものは、ビジョンが見えないといけない。白馬高校は、そのビジョンがよく見えて体制がしっかりできていると思う。白馬高校だけでなく、両村が協働して、一つの方向に向かって、確かな足跡として目に見える取組がなされた 2 年間だった。地元の中学校を預かる者として、こうした取組を学校の中で伝えていく義務があると思う。

<松本委員>

○小谷村の行政の立場としてお話しをさせてもらおうと、白馬高校への支援が、必ずしもすべての村民に理解されているとは限らないと思う。白馬高校には、この地域の高校として投資しなければならない。それを村民に理解してもらわなければならない。

○観光を主な仕事として生きている村だ。その将来を担う人材をこの地域で育てることは当然必要なことだ。

○今までは、順調だが、今度3学年そろって、その時に初めて様々な問題が出てくると思う。それをできるだけ早く見つけて改善することが大切だ。

<下川委員（太田白馬村副村長）>

○平成30年度が一番大切な時期と考えている。公営塾、教育寮、学校、行政の連携、それに生徒や保護者との連携を強化しなければいけないと考えている。

<白戸会長>

○白馬高校をどんな学校にするかという話し合いをした時に、観光というものは、大変難しいもので、困難を極めるのではないかとお話しした覚えがある。

○高校の行動力と地域の支えで、ここまでのところでは予想以上に成果が上がっている。白馬高校の先生方の努力も大変なものだ。それを両村の行政や地域の体制がうまく支えている。

○高校での「コミュニティースクール」の運営は、小中学校と異なり通学区が広く、住んでいる場所が広域に及ぶ関係で難しい面もあるが、これまでのところは、学校の今後のあり方を地域で協議するという意味で成果を上げていると思う。

○次の1年間は、さらにうまくいくかどうかの大切な年だと思う。卒業生が、全国に散って行って、できれば最終的には、戻ってきて地域を支える人材になってもらうということが大切だ。そうした仕組みづくりを、今後さらに考えていかなければならないと思う。

<北村委員>

○全国から希望をもって白馬に来た生徒たちが、来てよかったと思って卒業して、進路実現を図ってくれることが大切なことだ。もう一つは、地元の生徒たちが、トータルとして地域に支えられる白馬高校に行ってよかったという成果を出さなければいけない。

<横澤委員>

○中学生の保護者の白馬高に対する認識が大切。保護者との意見交換ができると良い。ふるさとを大事にしないと、学校だけでなくふるさとそのものがなくなってしまう。

<奥原委員>

○高校のあり方について、これから子どもを中学や高校に上げる保護者に興味を持ってもらいたい。白馬高のことを小中の保護者にどう広め、伝えていくかが大切な課題だ。

<宮嶋委員>

○自分の子どもたちに将来のことを考えさせる機会があまりない。それでも子どもたちを父親の職場に連れて行くと、父親がこういう仕事をしていると気づき、子どももこういう仕事をしてみたいという気持ちになる。将来のことを考えるきっかけとなる。

<白戸会長>

○来年度が大変重要な年になる。白馬高校でのこうした取組が実を結ぶかどうかは、もっと長い目で見ていく必要もあるが、まずは来年度末に一度まとめられるようにしたい。

○若い人たちが地域に向き合って、何を役割として得て、何を期待と受け止めて、どのように地域に貢献できるようにしていくかが大事になる。「こんな地域にしたいから、こんな人材を育てたい」との願いで学校と地域がひとつにつながる大切だ。

一年間ありがとうございました。

(6) その他

○来年度第1回学校運営協議会は5月開催予定で計画する。

(7) 閉式の言葉